令和６年　　９月　　８日

令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問調査）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問調査）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	６５人	算数	６６人	理科	６６人
第５学年	国語	５４人	算数	５４人	理科	５４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

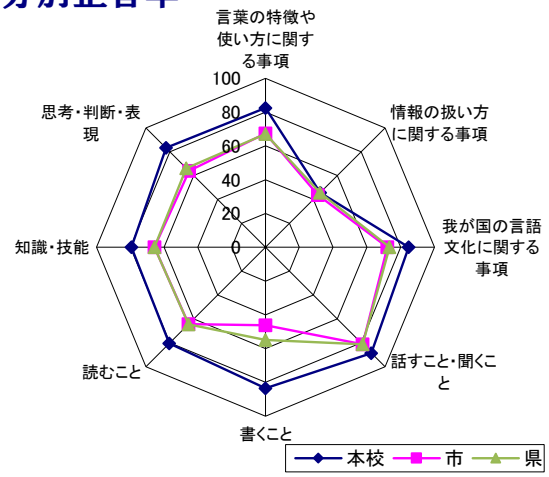
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.5	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	45.8	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	84.8	72.1	73.4
	話すこと･聞くこと	88.6	81.2	81.2
	書くこと	83.5	46.2	54.9
	読むこと	80.5	64.3	64.5
観点	知識･技能	79.4	65.7	65.7
	思考･判断･表現	83.3	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

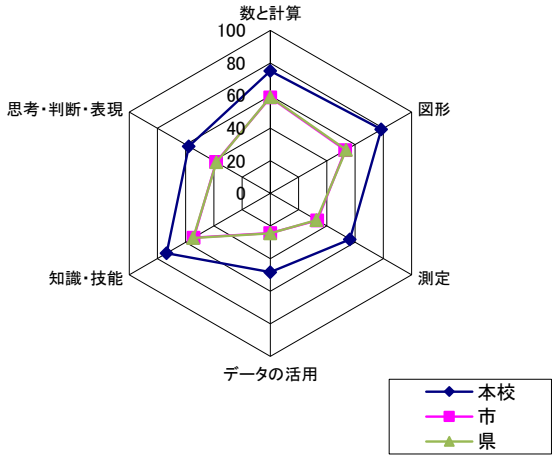
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県の平均よりも15.4ポイント，市の平均よりも15.1ポイント高い。 ○漢字を正しく読んだり書いたりすることが良くできている。また，正しい主語と述語の組み合わせを選ぶ問題では，正答率は91.5%と県や市の平均と比べても高い値である。	･引き続き，漢字ドリルや小テスト，AIドリルを活用して反復練習を行い，定着を図る。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は県の平均よりも0.1ポイント，市の平均よりも2ポイント上回った。 ●平均とほぼ同じ結果ではあるものの，平均正答率は45.8%と低くなっており，国語辞典の使い方を理解し，正しく活用することにやや課題が見られる。	･今後も授業の折に国語辞典を活用する場面を積極的に設けていく。 ･意味がいくつかある言葉に関しては，その文中で合う意味を選ぶ練習をしていく。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県の平均よりも11.4ポイント，市の平均よりも12.7ポイント高い。 ○漢字のへんやつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくることができている。新出漢字の学習の際に，へんやつくりについて確認する時間を設けた結果と言える。	･今後も引き続き漢字の読み書きだけでなく，部首などにも注目して学習できるよう指導していく。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県と市の平均をどちらも7.4ポイント上回った。 ○「相手に伝わるように自分の考えを理由をあげながら話すことができる」という問題についての正答率は98.3%と高かった。日ごろから話すときに理由を添えて話す練習をしている成果だと言える。	･今後も1分間スピーチや発表，話し合いの場において，自分の理由を添えて考えを話すことを続けていく。 ･話し合い活動における聞き方や話し方の指導を継続的に行い，話の中心を捉えながら自分の考えをまとめる力を養っていく。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
書くこと	平均正答率は，県の平均よりも28.6ポイント，市の平均よりも37.3ポイント高い。 ○自分の考えとその理由を明確にしながら書いたり，指定された長さで文章を書いたりすることができている。 ●段落の役割について理解し，2段落構成で文章を書くことについては，県や市の正答率を上回っているものの正答率が66.1%と，やや課題が見られる。	･引き続き自分の考えとその理由を明確にしながら文章を書く機会を設けていく。 ･段落の意味や役割，構成の仕方について理解し，正しく書くことができるように指導していく。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
読むこと	平均正答率は県の平均よりも16ポイント，市の平均よりも16.2ポイント高い。 ○登場人物の気持ちを叙述から読み取る問題についての正答率は98.3%と高く，正しく読み取ることができているといえる。 ●場面の様子について叙述をもとに捉える問題の正答率は40.7%と課題が見られる。	･文学的文章では，登場人物の気持ちだけでなく，場面の様子も叙述から捉えることができるように，丁寧に指導していく。 ･読書の時間を確保するなど，様々な文章に触れる機会を増やし，読む力を養っていく。 ･フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.1	58.9	59.2
	図形	78.5	53.0	53.7
	測定	56.4	33.1	32.6
	データの活用	48.3	24.4	24.6
観点	知識・技能	73.5	54.3	54.7
	思考・判断・表現	57.8	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

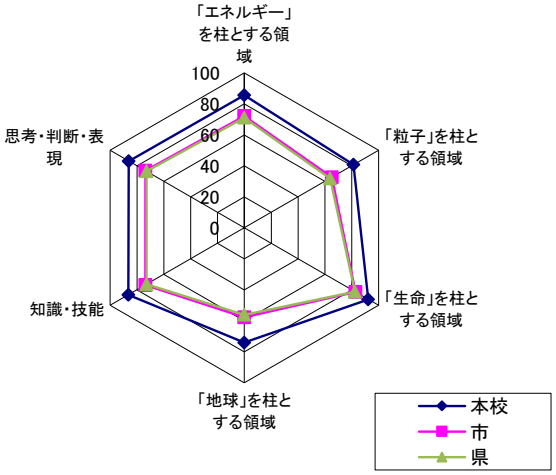
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県の平均より15.9ポイント，市の平均より16.2ポイント高い。 ○数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ問題の正答率は93.2%で，県と市の平均をいずれも21.3ポイント上回った。 ●かけ算の計算の仕方について説明する問題については，県や市の正答率を上回っているものの正答率が22%と，課題が見られる。	・今後も問題場面を正しく理解するために，図を用いて場面を整理したり，問題文に書かれている情報に印をつけて整理したりするように指導する。 ・かけ算において「かける数」と「かけられる数」の違いを理解し，正しく使えるように指導していく。 ・フォローアップシート・CBT問題を活用して，習熟を深める。
図形	平均正答率は，県の平均より24.8ポイント，市の平均より25.5ポイント高い。 ○円の性質を利用して，正三角形を作図する問題の正答率は78.0%で，県の平均を38.0ポイント，市の平均を39.1ポイント上回った。	・今後も作図などを通して，図形の定義を正しく理解できるように指導する。 ・コンパス，三角定規などの使い方を丁寧に確認する。 ・フォローアップシート・CBT問題を活用して，習熟を深める。
測定	平均正答率は，県の平均より23.8ポイント，市の平均より23.3ポイント高い。 ○重さの単位を理解し，合計の重さの大小を比較する問題の正答率は40.7%で，県の平均を13.9ポイント，市の平均を14.4ポイント上回った。 ●時間と時刻を理解し，時間を求める問題については，県や市の正答率を上回っているものの正答率が55.9%と，課題が見られる。	・時間や時刻について，具体物や図を用いて問題の意図を確認するなど，２年生から継続的に指導する。 ・時間の経過を数直線で表し，場面を正しく理解できるように指導する。 ・フォローアップシート・CBT問題を活用して，習熟を深める。
データの活用	平均正答率は，県の平均より23.7ポイント，市の平均より23.9ポイント高い。 ○適切な棒グラフから，示された値を読み取る問題の正答率は72.9%で，県の平均を23.4ポイント，市の平均を25.1ポイント上回った。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し，身の回りの事象について活用する問題の無回答率が20.3%で，無回答率が最も高い。	・社会など他教科でグラフを読む場面においても，様々な種類のグラフを見比べたりするなど，グラフを読み取る力を育てる。 ・児童が身近なことについてグラフを書く場面を設け，グラフや表の特徴や利点に関する理解を深める。 ・フォローアップシート・CBT問題を活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	85.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	81.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	92.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	74.0	57.7	56.2
観点	知識・技能	86.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	86.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より14.6ポイント，市の平均より13.5ポイント高い。 ○全体的によく定着が図られている。風やゴムのはたらきがものを動かすことや磁石のはたらきについて，実験結果を正しく読み取り，考察したり推測したりすることがよくできている。	・今後も実体験を重視し，１人１人が五感で学ぶ実験活動をさせるようにしていく。 ・実験の結果を表などに分かりやすく表す活動を行い，変化を見取ったり比較したりすることがさらに効率的にできるようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より17.5ポイント，市の平均より16.2ポイント高い。 ○形を変えても物の重さは変わらないこと，同じ体積でも物の種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができている。 ●正答率は市の平均を22.1ポイント上回っているが，「体せき」という用語を正しく表現できなかった児童が28%ほどいる。	・理科の用語を意識させ，正しく使えるように指導していく。 ・実験の結果から考えられることを話し合う活動に十分時間をとり，自分たちの言葉でまとめられるようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より9.9ポイント，市の平均より9.5ポイント高い。 ○どの内容でも90～100%の正答率であり定着が図られている。	・今後も，授業時間だけでなく，身近な自然や現象に，関心や疑問を持って目を向けるようにさせていく。 ・実験や観察のポイントをはっきりさせた支援指導をしていく。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より17.8ポイント，市の平均より16.3ポイント高い。 ○太陽と影について，影のでき方など，定着が図られている。 ●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では，県や市の正答率を上回っているものの正答率が61.0%と，やや課題が見られる。	・今後も，授業時間だけでなく，身近な自然や現象に，関心や疑問を持って目を向けるようにさせていく。 ・知識・技能の取得が図られており，思考問題も正答率が高いが，やや個人差が見られる。一人一人に対応した的確な支援や指導をしていく。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。

宇都宮市立峰小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」の設問の肯定割合は88.1%で，「勉強していて，『不思議だな』『なぜだろうな』と感じることがある」の設問の肯定割合は91.1%である。また，「次の教科などの学習は，将来のために大切だと思うか」の設問には，「国語」「社会」「算数」「理科」「総合的な学習の時間」のどの教科でも90%以上児童が肯定的な回答をしている。児童は興味をもち，その大切さを感じながら勉強に臨んでいると考えられる。今後も，学習する楽しさを味わえるような授業を展開していく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問の肯定割合は89.5%，「授業では，自分の考えを発表する機会があたえられている」の肯定割合は92.5%，「クラスの友達の間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」の設問の肯定割合は82.1%であり，多くの児童が進んで話し合いに参加することで，学びを深めていると考えられる。

○「家で宿題をしている」の設問の肯定割合は94.1%，「学校の宿題は自分のためになる」の設問の肯定割合は97%，「家で，学校や学習塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問の肯定的割合は，76.2%であり，宿題にしっかりと取り組み，さらに自主学習をしている児童が多い。児童が家庭学習の必要性を感じながら学習していることが分かる。

○「自分には，よいところがあると思う」の設問の肯定割合は88%，「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」の設問の肯定割合は85.1%である。今後も児童を認め励ます教育を推進するとともに，学校と家庭とが連携して児童の努力や成長を見守り，よさを伸ばす指導を継続していきたい。

○「ふだん（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビやDVD，動画などを見たり，聞いたりしていますか（テレビゲームはのぞく）」の設問に1時間より少ないと回答した児童は32.9%，「ふだん（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，けい帯式のゲーム，けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ）をしますか」の設問に，1時間より少ないと答えた児童が53.8%である。家庭において，インターネットやゲームの使い方などの約束を守り，節度ある生活を送ろうとしている児童が多くいることが分かる。

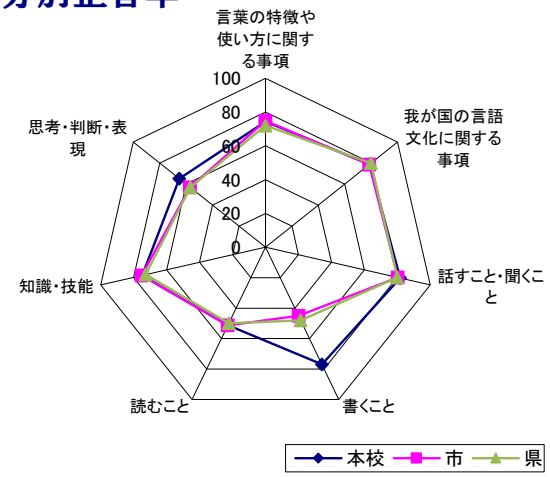
●「授業で自分の考えをまとめて書くことはむずかしい」の設問の否定割合は，62.7%であり，自分の考えをもったり，それを言葉にすること苦手意識をもっていたりする児童が多いことがわかる。今後は，授業のまとめを自分の言葉で書かせたり，作文や意見文などを書かせたりする機会を多くし，書くことに対する抵抗感をなくしていきたい。

●「「１か月に，何冊くらい本を読みますか（教科書や参考書，まんがやざっしはのぞく）」の設問に2冊以下と回答した児童は25.4%の一方，５冊から10冊と回答した児童は32.8%，10冊以上と回答した児童は28.4%とそれぞれ，市の割合を8ポイント，5.7ポイント上回っている。このことから，読書を好む児童とそうでない児童の差が大きいと感じる。また，「新聞を読んでいる」の設問で読んでいる回数が月３回以下の児童が89.6%であった。新聞を取っていない家庭が多くなっており，活字に触れる機会が少なくなっていると考えられる。図書室で自由に読むことができる児童向けの新聞を紹介したり，児童同士で本を紹介したり，読書をする時間を設けたりするなど，活字や本に親しむ活動を設け，文章を読む機会を増やしていきたい。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.7	80.4	80.0
	書くこと	76.9	45.1	48.0
	読むこと	51.2	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.8	75.2	72.8
	思考・判断・表現	65.3	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

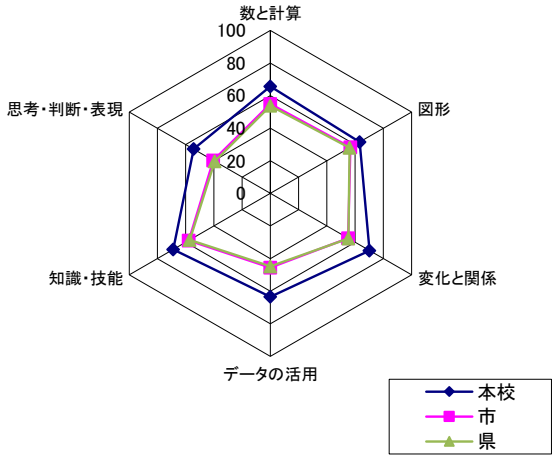
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，県の平均を2.4ポイント上回っていて，市の平均を0.4ポイント下回っている。 ○漢字を正しく読むことはよくできているが，書くことに対して課題が見られる。 ●修飾している言葉を選ぶ問題については，正答率が県の平均を9.3ポイント，市の平均を6.6ポイント下回っており，課題が見られる。	・今後も，漢字ドリルや小テストを活用して，インプットとアウトプットを繰り返して行い，定着を図っていく。また，他教科等の学習の中で，習った漢字を使うように指導していく。 ・物語文や説明文を学習する際に，文の構成や語句の係り方に目を向けて内容を正しく読み取れるように指導していく。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県の平均を1ポイント下回っていて，市の平均を0.3ポイント上回っている。 ●「慣用句の意味を理解して，正しく使うこと」については，市の平均正答率を上回るものの，78.9%と課題が見られる。	・慣用句の意味を調べてまとめたり，友達同士で問題を出し合ったりする活動を通して，ことわざについての理解を深め正確に使えるようにしていく。また，学校生活の中で，教師が意識的に使うようにして，関心を高める。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県の平均よりも1.7ポイント，市の平均よりも1.3ポイント高い。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」についてはよくできている。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い，参加者の発言を基に，考えをまとめることができる」について，平均正答率が県や市の平均を上回るものの67.3%と課題が見られる。	・今後も，国語の授業はもとより，他教科の授業でも，意見の共通点や相違点に着目して自分の考えをまとめ，伝えることができるように指導していく。 ・司会者の役割について共通理解を図るとともに，学級全体での話合いやグループでの話合いの時に，多くの児童が司会者の経験ができるように場の設定をしていく。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
書くこと	平均正答率は，県の平均より28.9ポイント，市の平均より31.8ポイント高い。 ○段落の役割を理解し，２段落構成で事実と意見を区別し，指定された長さの文章を書くことができている。	・今後も，事実と意見を区別して，段落に分けて文章を書く指導を継続していく。 ・今後も学習の中で書く活動を多く設定し，理由や事例などを挙げながら自分の考えを書くことができるようにしていく。 ・家庭学習として，日記や作文の課題を出すようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。
読むこと	平均正答率は，県の平均を1.2ポイント上回っていて，市の平均を0.1ポイント下回っている。 ○説明文では，全体的に内容を正しく読み取ることができている。 ●物語文における「登場人物の気持ちの変化について，具体的に想像することができる」については，平均正答率が32.7%で無回答率も15.4%あり，課題が見られる。	・物語文では，登場人物の気持ちだけでなく，叙述から登場人物の性格や場面の様子が読み取れるように時間を確保し，丁寧に指導する。 ・読書活動を推進し，表現力が豊かな文章にふれる機会を増やす。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深めていく。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.7	54.9	53.7
	図形	63.1	56.6	56.1
	変化と関係	70.2	55.1	55.2
	データの活用	63.5	45.5	44.8
観点	知識・技能	68.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	54.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

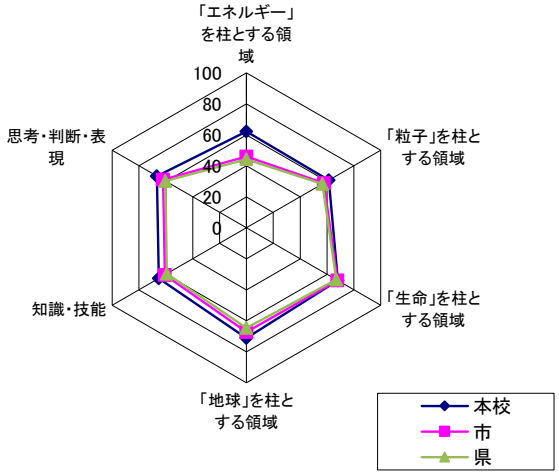
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県の平均より12.5ポイント，市の平均より10.8ポイント高い。 ○数と計算の領域では，全14問の問題中，13問の正答率が，県の平均，市の平均共に上回っている。 ●小数の仕組みを理解しているかどうかをみる問題では，県の平均，市の平均共に下回っており，小数が整数の何倍なのかの理解に課題が見られる。	・小数の仕組みの定着を深めるために，具体物やデジタル教科書を用いながら授業を行う。 ・新しい単元に入る前に，前学年での内容確認をして，既習事項の復習をする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
図形	平均正答率は，県の平均より7ポイント，市の平均より6.5ポイント高い。 ○180度より大きい角の大きさを求める問題では，正答率が69.2%で県の平均を23.7ポイント，市の平均を21.1ポイント上回っている。 ●三角定規を利用して，正しい角度を選ぶ問題では，県の平均を8.4ポイント，市の平均を7.8ポイント下回っている。	・三角定規の仕組みや角の大きさの理解を深めるために，三角定規を用いた類似問題を多く扱い，習熟を図る。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
変化と関係	平均正答率は，県の平均より15.1ポイント，市の平均より15ポイント高い。 ○割合を使った比べ方について説明する問題では，正答率が57.7%と低いが，県の平均を28.3ポイント，市の平均を26.4ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では，正答率が県の平均，市の平均共に上回っているが，53.9%と低い。	・2つの数量の関係を式に表す問題では，図の見方や規則性を読み取る練習問題に取り組む時間を増やす。 ・伴って変わる2つの数量の値を求めたり，○や□を用いて立式したりする問題に，継続的に取り組ませる。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
データの活用	平均正答率は，県の平均より18.7ポイント，市の平均より18ポイント高い。 ○表の数が何の数を表しているかを答える問題では，正答率が84.6%で，県の平均を17.1ポイント，市の平均を17.6ポイント上回っている。 ●グラフから読み取った数を示し，変化の様子を説明する問題では，正答率が平均，市の平均共に上回っているが，19.2%と低く，無回答率も県や市の割合よりは低いが36.5%となっている。	・グラフや表から問題を読み取る抵抗感をなくすために，日常生活の中で児童の興味がありそうな事柄をデータとして活用する。 ・データから読み取れたことを書き表したり，児童同士で説明しあったりする機会を多く設けて，類似点や相違点を見つけるための理解を深める。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	61.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.1	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	71.2	67.2	64.6
観点	知識・技能	65.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より17.9ポイント，市の平均より16.2ポイント高い。 ○乾電池のつなぎ方の問題についての正答率は84.6%で県，市の正答率をどちらも20ポイント以上上回っており，児童がよく理解できていることがわかる。 ●電流計からよみ取れることや乾電池のつなぎ方による電流の強さの違いについては，県や市の平均正答率を上回っているものの，正答率は50%であり，電流についての理解に課題が見られる。	・今後も，身近な現象に対しての疑問を実験を通して解決していく学習過程を重視していく。 ・知識・技能の取得には個人差が見られるので，一人一人に対応した的確な支援や指導をしていく。 ・実験の結果から考えられることを話し合う活動に，十分時間をとり，自分たちの言葉でまとめられるようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より4.8ポイント，市の平均より3.7ポイント高い。 ○とじこめた空気の性質についてや実験の結果から金属の温度と体積についてを読み取る問題では，正答率は90%を超えており，定着が図られていると言える。 ●実験の結果を構想したり，身近な出来事と関連づけて理解したりすることを問う問題の正答率が30%程度と低い。	・実験結果から，身の回りの現象と関連付けて考えられるよう，観察・実験をする時間を十分に確保し，体験的な学習をできるようにする。 ・実験の計画を立てる際に，何のための実験・準備なのかをしっかり確認し理解させるようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より1.2ポイント，市の平均より0.3ポイント高い。 ○骨や関節についての理解を問う問題では，正答率が86.5%で，県の平均を5.5ポイント，市の平均を4.1ポイント上回っており，定着が図られていると言える。 ●四季の植物に関する問題の正答率が県や市の平均正答率と同等かやや低い。	・今後も身近な自然事象への関心を高めていけるよう，継続的 な観察を行い自分の目で確かめさせる経験を積ませ，実感を伴った理解を図る指導をしていく。 ・ICTを活用した観察記録の仕方を工夫し，継続的な観察の記録のまとめに生かす。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，県の平均より6.6ポイント，市の平均より4ポイント高い。 ○水の流れ方に身近な出来事と関連付けて考えているかを問う問題についての正答率は90.4%で県や市の正答率を上回っている。 ●気温・蒸気・星座についての問題は，県や市の平均正答率を上回ってはいるものの，校内の正答率は60%から70%とやや低い。	・実験や実体験に基づいた学習は，よく定着していると考えられるが，基礎的な知識についての定着に差が見られるので，定期的な復習を行う。 ・実験の結果から考えられることを話し合う活動に，十分時間をとり，自分たちの言葉でまとめられるようにする。 ・フォローアップシート，CBT問題を活用して習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」の設問の肯定割合は94.4%，「授業を集中して受けている。」の設問の肯定割合は94.4%，「クラスは発言しやすいふん囲気である。」の設問の肯定割合は88.9%，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の設問の肯定割合は98.1%で4つともに県の肯定割合を上回った。学校の学習環境が整っており，学習に取り組みやすい雰囲気や学びに向かう集団が形成されていることが分かる。今後も学習に取り組みやすい集団作りをしていきたい。
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の設問の肯定割合は83.3%で，県の平均を6ポイント上回った。また，「授業では，自分の考えを発表する機会があたえられている。」の設問の肯定割合は90.8%で，県の平均を5.6ポイント上回った。「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」の設問の肯定割合は，76%で県の平均と同程度であった。これまで授業において，学習問題に対して自分の考えを持ち，その考えを用いて友達と交流する場を設けてきた。今後も自分の考えを整理して言語化し，他者と話し合うことで思考を深め，多様なものの見方・考え方ができるようにしていきたい。
○「家の人と学校でのできごとについて話をしている。」の設問の肯定割合は94.4%で県の平均を7.5ポイント上回った。また，「家の人と学習について話をしている。」の設問の肯定割合は85.1%で県の平均を7.3ポイント上回った。家庭が児童の学校での様子を気にかけ，教育に関心をもっていることが伺える。
○「1か月に，何さつくらい本を読みますか（教科書や参考書，まんがやざっしはのぞく）。」の質問では，5冊以上読んでいる児童の割合が48.2%で，県の平均を7.2ポイント上回った。今後も日頃から読書の機会を増やせるよう，司書教諭と連携を図っていきたい。
●「勉強していて，「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。」の設問の肯定割合は68.5%，「ぎ問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい。」の設問の肯定割合は62.9%で，それぞれ県の平均を15.4ポイント，5.4ポイント下回った。児童が学習を通して，疑問に思ったことを追究したくなるような授業展開をしていきたい。
●「ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある。」の設問の肯定割合は85.2%で，県の平均を8.4ポイント下回った。授業だけでなく，これから行われる学校行事や学級活動を通して，ものごとに粘り強く取り組むことで成功する経験を積ませ，目標に向かって継続して努力する重要性や達成したときに喜びを感じさせていきたい。

宇都宮市立峰小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもった上で友達と積極的に意見を交流し，自らの考えを修正したり深めたりする力の育成	教材やICTを効果的に活用し，自分の考えをペアや小グループで伝え合ったり，ノートやタブレットにまとめ，意見交換をしたりする機会を設けている。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の設問の肯定割合は，4年生，5年生共に県の平均を上回っているが，「話合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合は，4年生が82.1%，5年生が76%で，県の平均を4年生は4.6ポイント上回っているが，5年生は2.3ポイント下回っている。
目標やめあてに基づき，学んだことを振り返る活動の充実	学習展開を工夫して，今行っている学習活動を意識させ，授業を振り返るための視点を児童に与えている。	「授業であつかうノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の設問の肯定割合は，4年生が92.5%，5年生が88.9%で，県の平均より4年生は3.3ポイント高く，5年生は3.2ポイント低い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から，国語の文章から様子や気持ちを具体的に読み取ったり，算数ではグラフから情報や利点を読み取ったり，説明したりする問題での平均正答率が低いものがあった。	文章やデータを正確に読み取り，必要な情報や自分の考えを書く活動の充実	身近なテーマや自分たちに関わりの深い内容で書かれた文章を取り上げたり，日常生活の中で児童が興味がありそうな事柄をデータとして活用したりするなど，学習内容を実生活に生かすことができるような手立てを講じる。